

再評価調書

NO. 1

事業名	経営体育成基盤整備事業(ほ場)		事業区間	本堂地区(福井市本堂町)		
事業目的						
<p>本地区は、昭和46年～昭和50年にかけて、標準区画30aに整備されたが、用排水路施設は老朽化が著しく水管理および維持管理に苦慮しており、農地も湿田状態である。また、農道は狭小で大型機械の導入に支障をきたしている。さらに、担い手不足や農業従事者の高齢化でもあるため、営農が困難である。</p> <p>このため、ほ場の大区画化をはじめとする生産基盤の整備を実施し、低コスト農業の確立を図る一方、法人化を目指した農業生産組織を設立し、効率的、安定的な農業経営の確立を目指す。</p>						
全体事業内容						
(受益面積:41.4ha) 区画整理 : 区画整理 A=33.7ha 暗渠排水 A=33.7ha 土地総 : 用排水施設 L= 1.9km 暗渠排水 A= 7.7ha						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成20年度	-	平成20年度	平成27年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H25年度まで)	進捗率 (H25末)	残事業費 (H26以降残額)	備考
予算額		750,000	680,050	90.7%	69,950	
財源内訳	国庫	393,248	354,775		38,473	
	県他	356,752	325,275		31,477	
費用対効果		1.69(総費用 9億円、総便益 15.2億円)				
事業の進捗状況	H25までの状況	区画整理 A=33.7ha 暗渠排水 A=39.0ha 用排水施設 L=1.9km				
	H26以降残事業	暗渠排水 A= 2.4ha				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	7.4億円	7.5億円	区画整理実施後、周辺山地からの湧水で営農に支障をきたす箇所がみられたため、湧水処理の増			
完成予定年度	平成25年度	平成27年度	上記の湧水処理を実施するため			
事業を休止した場合の影響						
<p>暗渠排水工事が滞ることにより、ほ場の湿田状態が改善されず、農地の汎用が困難となり、湿田での営農継続による農家負担の増大や、生産組織による大規模営農への阻害要因となることが懸念される。</p> <p>また、換地業務が滞ることにより権利関係の整理が不可能となる。</p>						
備考						

再評価調書

NO. 2

事業名	林道事業	事業区間	剣ヶ岳線(坂井市丸岡町山竹田～あわら市牛ノ谷)			
事業目的						
効率的な林業経営の展開や適正な森林管理および森林が有する県土保全、水源かん養等の公益的機能の高度発揮を図るため、広域に及ぶ森林を健全に管理する骨格的林道として整備する。						
全体事業内容						
全体延長 L=23,130m 幅員 W=4.0m～5.0m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成10年度	-	平成10年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H25年度まで)	進捗率 (H25末)	残事業費 (H26以降残額)	備考
予 算 額		4,561,800	4,062,775	89.1%	499,025	
財 源 内 訳	国 庫	2,256,249	2,018,646		237,603	
	県 他	2,305,551	2,044,129		261,422	
費用対効果		1.11(総費用 72.4億円、総便益 80.9億円)				
事業の進捗状況	H25までの状況	延長 L=18,220m				
	H26以降残事業	延長 L=4,910m				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	47.3億円	45.6億円	規格の見直しや現地発生材の有効利用によるコスト削減を図ったため			
完成予定年度	平成26年度	平成30年度	新規工区の展開に伴う資材搬入路設置に当たり、地権者からの承諾が得られなかったため			
事業を休止した場合の影響						
利用区域内の半分以上をスギを中心とした人工林が占めており、林道が今後整備されなければ、間伐等適正な森林整備が進まず、間伐材の有効な利用促進が図れなくなる。 また、森林整備の遅れは災害発生の原因となる山地荒廃が進むなど、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されなくなる。						
備 考						

再評価調書

NO. 3

事業名	林道事業	事業区間	大野・池田線(大野市宝慶寺～池田町美濃俣)			
事業目的						
効率的な林業経営の展開や適正な森林管理及び森林が有する県土保全、水源かん養等の公益的機能の高度発揮を図るため、広域に及ぶ森林を健全に管理する骨格的林道として整備する。						
全体事業内容						
全体延長 L=21,937m 幅員 W=4.0m～5.0m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成3年度	-	平成4年度	平成29年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H25年度まで)	進捗率 (H25末)	残事業費 (H26以降残額)	備考
予 算 額		4,570,600	4,252,287	93.0%	318,313	
財 源 内 訳	国 庫	2,053,714	1,952,678		101,036	
	県 他	2,516,886	2,299,609		217,277	
費用対効果		1.27(総費用 80.9億円、総便益 102.8億円)				
事業の進捗状況	H25までの状況	延長 L=20,524m				
	H26以降残事業	延長 L=1,413m				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	44.3億円	45.7億円	地山の土質変更により土工量が増加したこと、および残土処分場の変更により運搬経費が増えたため			
完成予定年度	平成27年度	平成29年度	上記全体事業費の変更に伴い、進捗に遅れが生じたため			
事業を休止した場合の影響						
利用区域内の人工林のうち60年生以下の林分がほとんどを占めており、林道が今後整備されなければ、大野市～池田町間の間伐材搬出に支障をきたし、有効な利用促進が図れなくなる。 また、森林等とのふれあいの機会が生み出せなくなるなど、公益的機能が十分に発揮されなくなる。						
備 考						

再評価調書

NO. 4

事業名	経営体育成基盤整備事業(ほ場)		事業区間	川西中部地区 (福井市波寄町ほか)		
事業目的						
<p>本地区は、昭和34年から昭和41年に福井石川特殊排水事業、昭和39年から昭和41年にかけて団体営圃場整備事業により10a区画に整備された。しかし、農道幅員が狭く、用排水施設の老朽化も著しいことに加え、一級河川片川沿いおよび谷間部が軟弱で農業経営の合理化の障害となっている。また、用水においては、一級河川九頭竜川より取水しているが、塩水遡上により、慢性的な水不足となっている。</p> <p>このため、国営かんがい排水事業と併せ、ほ場の大区画化をはじめとする生産基盤の整備を実施し、低コスト農業の確立を図る一方、法人化を目指した農業生産組織を設立し、効率的、安定的な農業経営の確立を目指す。</p>						
全体事業内容						
(受益面積 276.5ha) 区画整理 A=276.5ha 暗渠排水 A=276.5ha 客土 A=164.7ha						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成17年度	-	平成17年度	平成28年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H25年度まで)	進捗率 (H25末)	残事業費 (H26以降残額)	備考
予 算 額		5,200,000	4,499,676	86.5%	700,324	
財 源 内 訳	国 庫	2,600,000	2,249,838	/	350,162	
	県 他	2,600,000	2,249,838		350,162	
費用対効果		1.36(総費用 81.0億円、総便益 110.9億円)				
事業の進捗状況	H25までの状況	区画整理 A=255.9ha 暗渠排水 A=246.4ha 客土 A=144.1ha				
	H26以降残事業	区画整理 A= 20.6ha 暗渠排水 A= 30.1ha 客土 A= 20.6ha				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	47.7億円	52.0億円	軟弱地盤対策を目的とした客土工の増			
完成予定年度	平成26年度	平成28年度	軟弱地盤対策として先行盛土が必要であり、計画沈下量まで圧密の促進等に期間を要するため			
事業を休止した場合の影響						
<p>残っているほ場整備および、暗渠排水工事が滞ることにより、低コスト農業および水田の汎用化が図れないため、事業効果が発現されない。</p> <p>また、用排水施設の老朽化が進行することにより、維持管理や水管理に係る農家への負担が増大し、農業経営が圧迫される。</p>						
備 考						